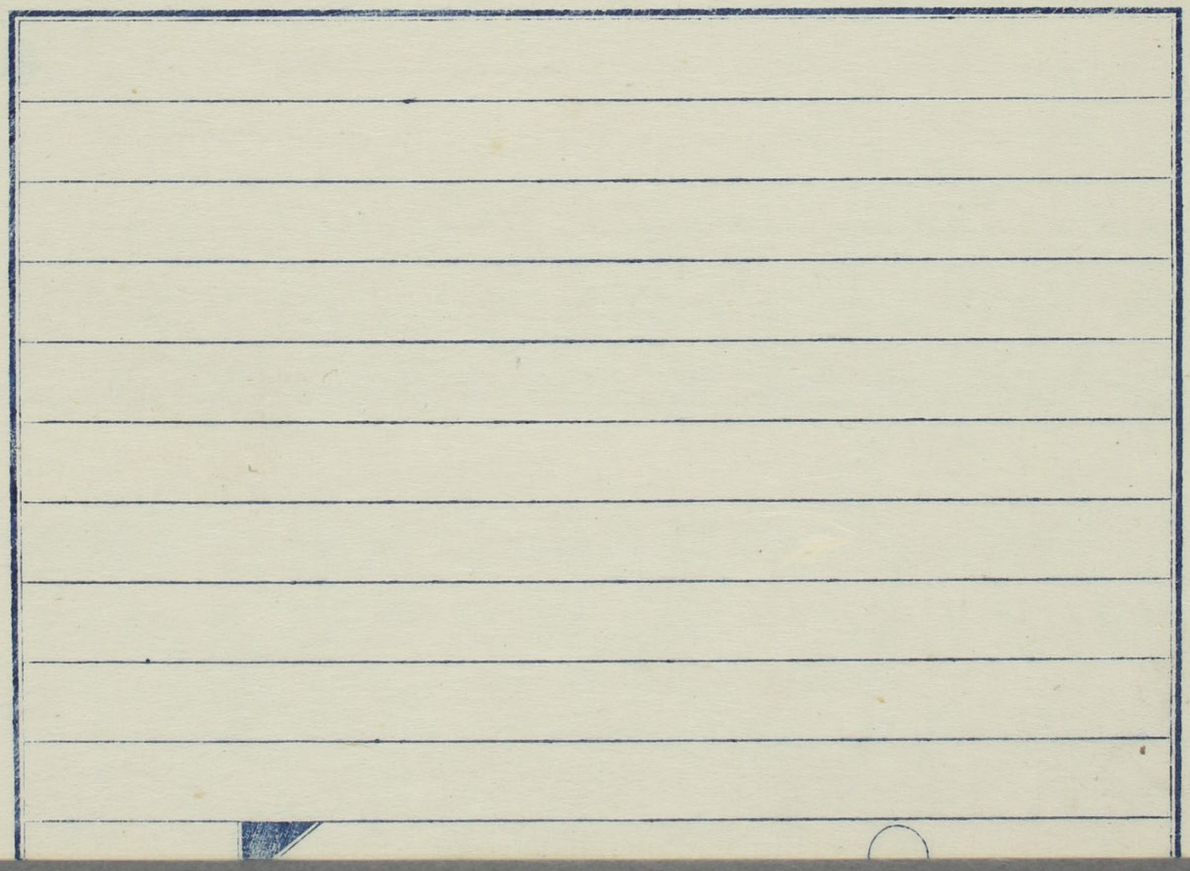
明治五年

壬申紀畧

早稲田大学図書館
文書27
A 38



明治五年壬申日記

正月元日

芝三緣山浮雲院ニ於テ新年ヲ迎ヒ午前第四字
四方拜六字直垂着用改ー長棒袴ニ改ル東
朝劍璽昇殿恐多クモ大廣間御疊三疊ニ
向拜　龍顏拜賀申上ル　皇后ハ御ス西丸
御城ヲ以テ大廣間高御帳基ル
皇帝出御ス御疊一疊月ヲ大改大臣三條
相公參議諸省ヲ卿　右大臣光令貞視ヲ改洲行幸ヲ　大小輔
奏任以上百官ヲ七等官ヲ勅奏ヲ官人ハ列

衣冠堂ニたり
天皇陛下市衣冠ニ白き御服ヲ袴ニ御袴を着
出御ありて賀禮を濟ませ退出
退朝三條公に出仕を勧め平野屋萬吉を呼ばせ
淨雲院に退く妻并嫡子大八六歳嫡女阿正三歳
と共に盛事を祝す
昨年より弟長次郎淨雲院に寓居せり昨年より
寓居平萬延焼す直に淨雲院に寓居仍て兄木
同長新年を迎
世の寒風猛烈なり平萬に年賀の挨拶

銀貨百圓を清原氏に
二日
前妻阿鍋に其日前に買物を為つ
御日休息ニて宅
三日
元旦祭直垂着用参朝宮中賢所内代々
皇聖拜禮畢而神祇省八神殿参拜
天皇陛下神祇省に行幸被遊神道に講義を
出御聞勅奏官左右正面相列に成自分八陛下
に正面に相對し実に天威顔を去る及ばて恐多き

次第ニ弥々椅子ヲ膳ニ移シ酒肴ヲ積む五辯
恢栗ニ成ル
世夜森ヲ妻平ヲ方ニ女房ニ申始ヲ入来仍而サヽ
大川前神明ニ平松料理茶屋ニ集ル
モ利茶屋ヲ大坂ニ引ル者 三島所料理屋ヲ新
ニ寄ル

四日

政事所ヲ八字奏朝議者ヲ一人ヲ長官出頭
聖上南前ニ出テ文部ヲ学政改革兵部ヲ陸
軍兵張大蔵ヲ出納左院ヲ興義事言表

〳〵夫ニ事始ヲ高官ヲ例ヲ因ル官内省ヲ酒
并餅ヲ賜ル謹拝頂戴仕ル

五日

新年宴會ヲ賜ル十字直垂着用奏朝
十時ニ西院院ヲ御黒書院ヲ於ル大政官ヲ省勅
奏両官三百人左院相列
聖上南面ニ出御立机ヲ盛饌二人膳ヲ献ル
聖上南箸ヲ下ル官人一同頂戴大喜
歌ヲ奏シ如〳〵宴會ヲ中央庭ヲ仕人夫
平楽ヲ奏〳〵其舞踏ヲ検実ヲ古代ヲ真

人皆感涙せざるなし　天皇も亦感歎
せり　盛饌を賜ふ　戴物宅家族一同に
賜る
元旦　毎歳儀式の日に恭奉者一同
四拝人〻咸り上り四拝
相乗大雪茅舎を招き振舞　祝酒
を酌む
六日
終日宅　此日戊辰伏羅面に特赦
七日　後藤氏来

仙台藩名報員
佐森九馬次
二本松丹羽丹波
林忠崇　脱走
竹中重固　榎本
会津　代木喜
松川悠三郎
海老名郡治
井澤義右衛門
春日　郡君
田中源之進
諏訪　伊助
佐川官兵衛
原野源之允
秋田新助

新年　初日　向島上杉播磨守屋敷
昌寿院殿七十七回忌法要　奥十畳
出席　市家族方に一日佐倉会の風を慕
州浅野侯来　昌寿院大喜ひ
紫千枝山吉来　酒肴戴物
八日　此日陸軍始め日比谷練兵場行隊行軍式　天覧
今日より新年の祝詞　小宴の後長谷川氏を通じ
家書を認め南親に書贈　新年の事を
多忙勢道
新陽亜東風の徳高き所南親

竹下　登
三宅内匠
松平定敬書
板倉勝静
松平容保
松平春嶽
右
特命ヲ以御頂
被免ル
従五位松平定敬
従五位板倉勝静
従五位松平容大
被進
以上二人ノ儀ハ

蓋古機略ヲ運ス歳ノ潜勇ヲ秘シ世表ニ
出ル西家ヲ洞ス御家ハ抽ンテ名ヲ外ニ
順ヲ一家ヲ持ル為ニ仕ル為ニ
成ル事ヲ家ノ所ニ細ノ成ハ兎角
洞察ヲ以テ舊臣數附類ニ
先方ヲ示ス誤ル事ヲ不達ス
置物要ニ出ル事ヲ一ツ宮島ニ地面
一年不作ノ内ニ宮島ニ地面ヲ
儘ノ内保科家ニ附類ヲ決ス
ニ小生ヲ一部ノ内ニ

於藩家ニ成ル家ヲ相撰金清ニ
ニ分金ヲ以テ清ニ
教ニ清ニ不カニ節ニ地所引
此節金ヲ辞ス成ル
世表書ヲ引移ル来ル非常ニ
不時ニ出ル一切保ル
出海船ニ費ル
松院ニ成ル東北ニ
海ニ出ル動ヲ用仕
名前ニ家ニ一切ニ儀式ノ節

差上候處吃と氣分ハ快方ニ趣き少々食事も出来
御安心下さる可候ニ付御手紙申上候
お上様　謹言
母上様　正月八日
大八六歳ニ相成候おとなしく相成候よし申上
且梅中々可愛ニ成候キカ十ヶ月頃ニ成候
おまさ殿も此頃ハよほとおとなしく候数も少しみ
額もよく叱られ候事も無之やうにて
よき事ハ候得共筆得そ宜しく
廿六日伏見能久伏見朝彦叙二品　徳川慶喜叙従一位

伊達慶邦南部利剛細川韶邦酒井忠篤丹羽長國阿部正静牧野忠訓酒井忠惇大久保忠禮内藤信思水野勝知叙従五位

同出獄之面々
榎本釜次郎
松平太郎
荒井郁之助
永井玄蕃
大鳥圭介
松岡盤吉
澤太郎左衛門
渋澤誠一郎
佐野雄之助
仙石丹次郎

九日○此日海軍始　兵部省ニ於テ特赦
参朝、箱館脱走榎本釜次郎外八人特別之御免
十日　因州卿掛屋を引拂左院議長之勤め
同日御用掛被仰付
参朝
十一日
今日休暇小梅ニ於テ君饗之宴
十二日
参朝　昨年十二月中別帛願書東京府へ進
達置候處今十三日指令有之
別帛

濱町元須坂藩邸地不相済家作之儀願

一濱町元須坂藩邸

右ハ邸上ケ邸ニ成ル地不拝借家作ハ

当ル代償ニ相渡ス地ハ拝借家作ハ

辛未十二月　東京府

朱書　願ニ通

家作拂代金二百三拾五円永代金申正月ヨリ

三十ヶ月月割上納ス可シ　東京府

宮島吉久願朱書ニ通ニ付直ニ相渡ス可シ

也

壬申正月十日　東京府

史官伺中　移人ヲ以テ朱書ニ通ス

信濃清祥ハ昨冬依田氏ヲ以テ過失敬ス而シテ

其ノ以来為法廷ニ於テ被ル

改ル所ニ従ヒ改ル所ニ従ヒ

以来厳元帝ノ為ニ為ス所ノ事業

ニ於テ伺ヒ濃言

大議生宮島吉久願　初ニ朱書ス　東京府内

青朱成元拝

[illegible]

十三日 伊藤[illegible]より出来

十四日

十五日

十六日晴

今日濱所拜借[illegible]より[illegible]雲院より移住[illegible]

人力車を街路より素[illegible]見[illegible]出[illegible]より舟一艘[illegible]

家財等[illegible]積み海上より[illegible]

須賀[illegible]郡[illegible]長[illegible]を[illegible]得上段二[illegible]間十六畳

畳半六畳二[illegible]湯殿[illegible]奥[illegible]

出動 四時過ぎ[illegible]

森[illegible]より来[illegible]

九時出[illegible]動

[illegible]

退[illegible]

[illegible]

十時出動

[illegible]

入[illegible]

十七日 [illegible]

十八日 昨日[illegible]

御布告

[illegible]制服[illegible]

平常[illegible]

[illegible]

[illegible]服[illegible]

十九日雨

[illegible]特[illegible]大鳥圭助[illegible]井吉蕃[illegible]人[illegible]任少議

官左院[illegible]初[illegible]議[illegible]佐木貫一任中議[illegible]

此日森右常德依願中議生ヲ免位記並勅任狀
秋月侯ヲ諭行ス

二十日晴

左院ヨリ中議官西岡逾明少議官小室信夫高崎
豐麿中議生鈴木貫一等國視察被仰付少議
生梅川敬成等ヲ視察被仰付
合中議官ヲ任大議官大鳥圭介免少議官閑院宮出仕
立浦休太郎大藏省七等出仕河野敏鎌司法權
中判事正六位宮原積位初島縣權令從五位岩代
紀任大侍醫兼文部中教授

森右常ノ妻ハ京都ニ
出立ス
七月廿日黃條一文
七月廿日黃菓一名
荊妻ハ八日正月
平兵ヲ以テ出立
ハ六月廿七日

此夜千坂高雅ヲ伴心駿河ヲ後藤議長宅ヲ訪ヲ
話ヲ終テ帰宅

山縣盛典ヲ以テ此時世子礼服出頭而陛ヲ奏聞而
即陳ヲ中ノ所位錦旗ヲ以テ
ヲ執ル宿ノ位ヲ執ル者ヲ千坂高雅ノ初ヲ執ル
ヲ以テ芸洋丸ヲ以テ会ス相国陛ヲ
ヲ以テ廿ヲ廿ヲ退院掛ノ事
ヲ終テ帰宅ノ位公

二十一

盛典

今俗事ヲ以テ洋行ス議官ヲ清川平清ヲ送ル

仮一議官議生を命ず　内務　盛憲

二十二日

越後国信濃川分れ堀割法有る土木権頭山田秀典

出張被仰付

文部少博士兼司法権中判事箕造麟祥兼任

中判事

告知　舊藩より提来紙幣創造器械并遣

物地紙類東京大蔵省并大坂出張出納寮に差

出す旨を表面を通焼捨相成候事　但銅板之類

取纏め候上追て破却可相成事

以上九十六縣舊藩より

二十三日

少議官小室信夫任中議生

二十四日　晴

天皇上杉茂憲公蜂須賀茂韶秋月種樹を

外花院連中洋行出発ヶ嶽洲金度造等

送別。森ちり八條一友南貫し山形一恪を賜

二十五日　大雨

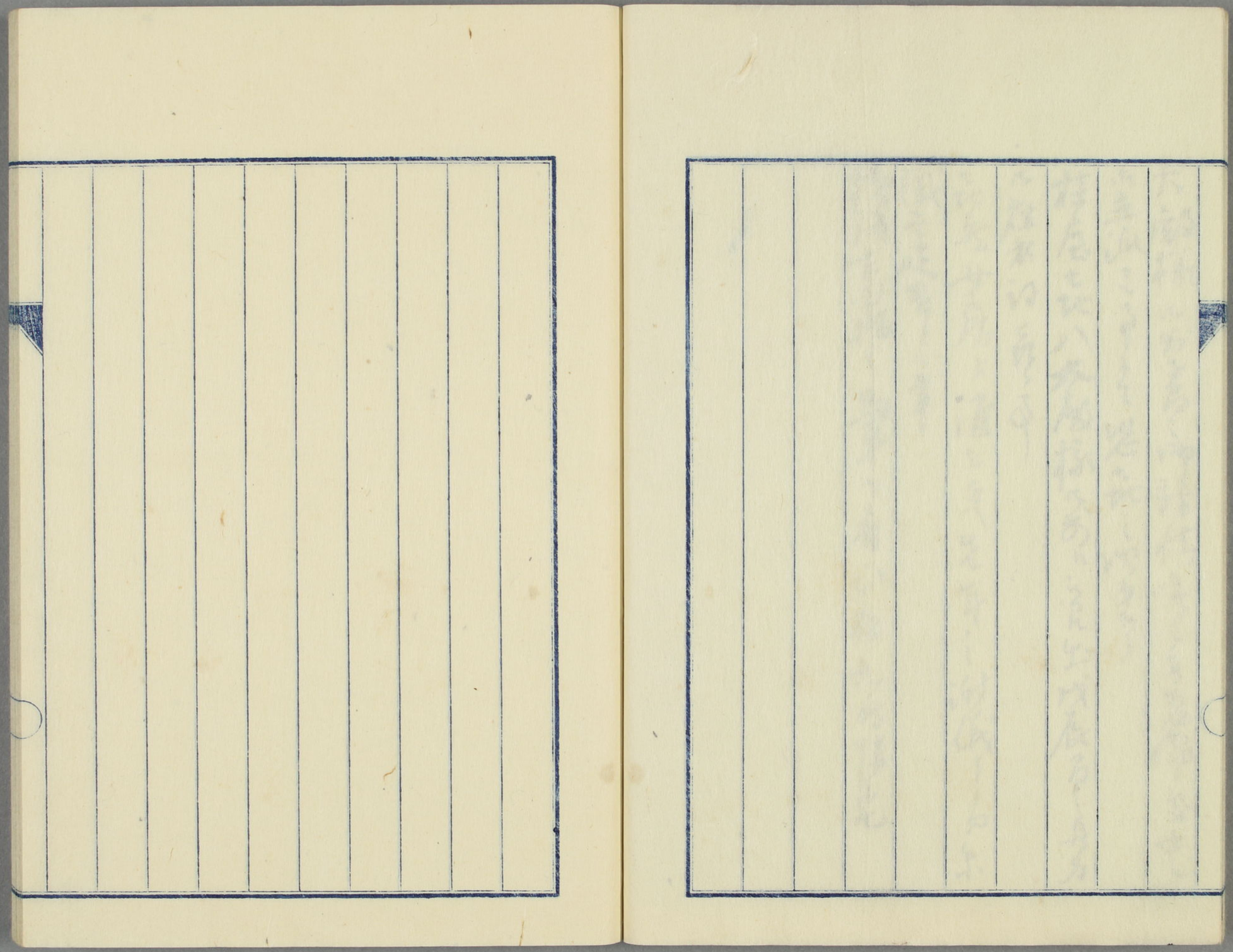
花院を大給恒議官と申合横濱に到り議官

を送別改文久保町平第に立寄り着服を借

用段し帰宅し暇なく人力車を駆出し海岸寺
寒天俄の降雪品川大森辺雪花愛人と
飛し前後進退若狭沖に晩景空腹を感じ漸
く六郷に渡船し舟小屋にて茶汁を濁酒
を飲みなる事なき所の壁に大絵の舟人にて横濱
と遠望の段八川崎一泊段々家を囲ひ
海築地精養軒に北村馬車にて横濱に着
て来京に来る仮名屋を湯升屋に入力を辞
し馬車に乗風雪を侵し神奈川に到る時
漸晴天歳の新海一條に銭を迎を祝もの
此日の為出立の時遠藤聚に来横濱に着
し住家を義者車中に面者
廿六日晴
大田町松本に新宅に移公に出達千坂加賀
に随行松平篤に助様森に常徳寺に面会
大殿様もち実別の横濱に沙汰入
夜食出帆夜半に滞船
此夜国元に出宿
廿七日好晴
未明発船横濱出帆

三月十三日馬耳博留港に碇
此一行森寺氏
三月廿四日着美
濃人四月廿五出し
き弥と去る月に
大久保伊豆俄
帰朝に

大阪桶に分書御証情咄等年寄衆中へ
立流さるる迄之故に御手当
桂屋七比八大阪掛合あり出戌辰月より
仕様取計致す
比度世話人より道を以て先年に御儀之為
徴之人数下り申
掛合書掛り事を信心被九時帰宅



以下
27丁
白紙

辛未手帖抄

四年五月

大久保参議西郷信吾長州ヘ到ル右ハ高縣出兵進ル大山格之助暴言ヲ謝罪　安芸一平静岡ヘ到ル西郷吉之助ハ勝ヲ伴フ

七日　土州阿州越前参根為深藩扇橋大六ヲ別荘ニ集會

八日　西郷　板垣ヲ宅ニ到

土佐越参来ル機密書ヲ五日ヲ期ス

九日　小笠原辞　京都ヲ到ル議判情実貫通

十日　板垣ハ商局ヲ事

十一日　板垣ハ知事ヲ公板垣ヲ到ル藩政改革旨ヲ到ル中ヲ謝ス

上杉老公青山氏利事件ニ付　十日　小笠原氏来訪ス
斉孝来訪ス　同伴事件
十三日　改正三氏平均ニ付書　天野氏来
十四日　小笠原方集会ヲ以　小笠原ハ西郷ヲ吉野ヲ会ス
十五日　板垣ヲ連　西郷　小笠原ヲ訪ス　安心
三条公大参事　白須氏ヲ改革ニ付
十六日　板垣小笠原両大参ヲ　我家ヲ会ス　ヲ知事公
ヲ乗
二十日　小笠原毅堂　同行ヲ三条公ヲ拝謁　出須中
ニ時事ヲ上　十九日　神戸津波
副島参議横浜ヲ出ル

廿六日　三條公拝謁
廿七日　大久保木戸両参議　鹿児島　山口ヲ帰藩
廿九日　岩倉木戸　後藤宅ヲ訪
晦日　後藤宅ヲ訪　板垣　西郷　初面談
六月朔日　森有礼ヲ同ク　観劇
三日　上杉老公ヲ帰藩　有礼ヲ帰藩
四日　西郷大参事　板垣ヲ訪　同談話
六日　高崎　板垣ヲ　山縣木戸ハ東京ヲ　策
九日　上杉知事ヲ　大久保参議ハ改正書ヲ
七日　上杉ヲ板垣　行

十二日 米澤藩龍出仕被命
十八日 米澤藩改正達令
二十日 大政官參議以下鄉輔一統出役之事
二十七日 改正西鄉木戸両人參議被命
七月廿日 上杉知事朝集濟て參朝
十日 上杉知事陸奥國出発
十四日 廢藩 知事免本官
〃〃 大隈板垣參議拜命

大政官改制

正院 大政大臣 納言 參議 樞密大小史

左院 議長 議員
右院 諸省長官 次官

三條右大臣免官 更て大政大臣拜命

諸節廢止

一
八月十日 五色湯の到
二十六日 歸宅
九月七日 東京へ發程 白兼行
十日 着京

九ツ半
一柳帥の艦長

十月十日大議生院議員拜命
十月十日岩倉木戸金權公使歐洲流出の旨
京を発
十二日横濱出帆
八日夜久保町賣茶亭より發火北風延燒我寓居
平萬類燒 此節中賣茶亭ヨリ出火久保町ヨリ燒拔
十四日芝清雲院に移住
十七日大嘗祭
十八日百官を皇城に召
天皇親臣 御前に於て宴會酒饌を賜ふ 雅樂觀
十九日家族妻女小婦大八女阿正到着
二十日 天皇横濱に行幸
二十三日還幸
十月二十三日上杉舊知事父子に三藩家材井長根田部
七名の播州招欲
廿四日高山治藤太郎盛德小笠原伊藤七右衛門播磨
廿五日高橋三島七有明播州會
廿六日板垣の會 老公ヘ
廿七日院中に於て議長の議 大臣の申
決答引合
院中章程言申

廿八日 参殿夜 塙尾保 小森旅次来

廿九日 参殿夜 高崎ヨリ板垣参議ヨリ論

十月朔日 向島公ヨリ 去廿六日会ヨリ 二百圓借用之公ヘ

ヨリ 此夜 右梅舎ヨリ 高崎 寺氏 三島 十木ヨリ 直

ヨリ 冊中 黒川 冬木 亭ヨリ 伊藤 輔ヨリ 飲む

二日 左院章程 正院ヨリ 下ル 二条 石甫

三日 所勞ヲ 来 千十亭 治療

四日 章程 来 昨日 議院ヨリ 建白

後藤ハ 退ヨリ 板垣 高崎 同行

國體ハ 獨裁ヲ 定律ヲ 加ヘ

天照宮 神祇ヨリ 外ニ 政府ヨリ 尊尊ヲ 安置 尊敬

シ 萬民萬世不易ヲ 法ヲ 為 神祇 為ノ 教法

為ヲ 為ヲ ヲシ

海陸軍ハ 親王 御門 法遊 ハ省中ヨリ 兵部

長 桜ヨリ 威公

文部ハ 教ヲ 出ル 處仏 御國體ヲ 因フスル 根元ヲ

ハ 社稷ヲ 裁制

政府ハ 民ヲ 無ク 進出ヲ 要ス

十日 来 東京ヨリ 山岩一酌

十八日 梅梅 来 嶽公 別業ヨリ 飲上杉老公 西高崎

八田右紀之介伊藤博周源寄数白光寺向高山ヶ
山ヶ余高嶺山議吉ヶ若原之人ヶ
七ヶ松村投之人沈水食死
書ヲ不
八日　三條公ヶ拜謁　兼而御通　谷日傳ヶ高山ヶ役
被仰拜命　若ヶ直也
九日　所勞不案内ヶ書状ヶ物ヶ　後藤東治堀金二条
ヶ送ヶ